

キーワード

- ① 歯内治療学
- ② 象牙質-歯髄複合体
- ③ 歯髄保存療法
- ④ 顕微鏡歯科学
- ⑤ 覆髄剤

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

②

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

②

授業概要

歯内治療学特論では、歯を長期に口腔内で機能的に保存せしめるために不可欠である歯髄保存療法を理解するために必要な知識について講義をおこなう。また歯科用マイクロスコープやケイ酸カルシウムセメントを用いた最新の歯髄保存療法について学修するとともに、覆髄剤の変遷と現在の歯髄保存療法の限界について議論をおこなう。さらに象牙質-歯髄複合体が本来有する治癒機序に則した生物学的な覆髄剤を開発することを念頭に、分子生物学的手法を応用した覆髄剤候補分子の探索と同定を目指すアクティブラーニングをおこなう。

授業科目の学修目標

歯科医学における歯髄保存療法の意義と変遷を理解し、最新の歯髄保存療法を修得する。
加えて、現在の歯髄保存療法の限界を理解するとともに未解明な事象をクリニカルクエスションとして抽出し、アクティブラーニングを通じて新規覆髄剤候補分子の探索を実践する。

授業計画

- ① 象牙質-歯髄複合体の発生、構造、機能(6コマ) 室町幸一郎
- ② 歯科医学における歯髄保存療法の意義(6コマ) 室町幸一郎
- ③ 覆髄剤の変遷と成功率(6コマ) 室町幸一郎
- ④ 歯科用マイクロスコープ下での歯髄保存療法(6コマ) 室町幸一郎
- ⑤ 新規生物学的覆髄剤候補分子の探索と創薬への展開(6コマ) 室町幸一郎

教科書および参考書

- ① 細胞の分子生物学(第7版)
- ② Cohen's Pathways of the Pulp (13th edition)
- ③ Seltzer and Bender's Dental Pulp (2nd edition)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書や国内外の原著論文や総説論文を熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯髄保存療法について理解し説明できる。
- ② 最新の歯髄保存療法を実践できる。
- ③ 新規覆髄剤候補分子の探索を実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

レポートは講義とアクティブラーニングで教授した知識と技術の理解度を形成的に評価する。(10%×5回)
口頭試問はレポート提出時におこない、知識と技術の理解度を形成的および総括的に評価する。(10%×5回)

理想的な達成レベルの目安

歯内治療学特論の理想的な達成レベルは80%以上とする。